

「JIS A 1207 土の遠心含水当量試験方法」の廃止（案）について

地盤工学会基準部

1. ま え が き

「JIS A 1207土の遠心含水当量試験方法」は、1950年に初めて日本工業規格（JIS）として制定され、1978年と1990年に一部改正を経て現在に至っている。これらの改正は、他の規格との整合性を保つためなどの形式的なものであり、本質的な内容の変更はなかった。1990年の改正のための見直しの際には、この試験方法は実質的にほとんど使われていないので、廃止すべきとの意見も一部にあった。しかし、実態を十分に把握するほどの調査時間がなかったため、次回の見直し時までには検討を行うことで、当面存続させることにした。

その後、基準部の土質試験基準検討委員会、JIS および ISO 検討委員会が試験方法の実施状況や工学的な利用の実態の把握に努めるとともに、存続の是非について検討を行った。そして基準部会の議を経て、以下に述べる理由によって、「JIS A 1207 土の遠心含水当量試験方法」を廃止することを提案する。この試験方法の廃止についてのご意見は、書面にて平成 9 年 8 月 31 日までに地盤工学会基準部宛にご提出いただきたい。

提出いただいたご意見を関係委員会等で検討し、当該 JIS の見直し原案作成団体としての当学会の方針は理事会において決定する。そして、最終的に主務大臣である建設大臣の付議により日本工業標準調査会（通商産業省工業技術院）の議を経て決定する予定である。

2. 廃止の理由

「JIS A 1207 土の遠心含水当量試験方法」を廃止する理由は、以下のとおりである。

- ① 試験実施機関に対するアンケート調査結果によると、ここ10年間にほとんどの機関ではこの試験が使用されておらず、2, 3 の機関で年間数件の実施が見られた。しかし、最近では、その数も激減している。
- ② 上記①の使用機関の試験実施目的は、pF 試験の簡便的な使い方であること、規格が存在するゆえの発注もあることなど、本来の試験目的としての使われ方がされていない。
- ③ 地盤工学会が販売しているこの試験のデータシートは、平成 4～8 年度の販売数がゼロである。
- ④ 近年、この試験結果は、実務における工学的な利用価値がほとんどない。
- ⑤ この試験によって得られる結果は、地盤工学会基準「JGS T 151 土の pF 試験方法」の遠心法の pF=3.0 の試験結果に相当する。したがって、この試験方法が廃止されても支障がない。

また、「第 8 次工業標準化推進長期計画」に基づく施策の中で、国家規格としての役割を終えた JIS の廃止などゼロベースからの総点検が求められているおりでもある。上記の理由と社会的な情勢から判断して、この試験方法の廃止は適切な状況にある。